

本田一弘

よりよく生きるために

二〇二二(令和四)年から実施される新
高校学習指導要領では、論理的思考力の育
成が強く打ち出されている。

・ 論理的、批判的に考える力を伸ばす
とともに、創造的に考える力を養い、他
者との関わりの中で伝え合う力を高め、
自分の思いや考えを広げたり深めたりす
ることができるようにする。

新設の選択科目「論理国語」の目標であ
る。では、このような目標を達成するた
めにどうしたらいいのか。今までの常識で考
えるならば、「論理的な文章(説明、論説、
評論等)」を扱うのがいいだろう。しかし、
いわゆる論理的な文章や実用的な文章を扱
うことだけが、「論理的、批判的、創造的」
に考え「伝え合う」力を育成するのだから
か。いや、そうではない。そこで今回提案
したいのが「短歌」を扱うということであ

る。今ほど挙げた目標をもう一度読んで欲
しい。我々が短歌を読む際に平生行ってい
るそのものではないだろうか。これまで文
学教材の一分野で扱われてきた短歌を論理
的な思考や伝え合う力を育む教材として扱
えないだろうか。

例えば、無記名の歌会を思い起こしてみ
よう。作品のみが書かれた資料が渡され
て、作品を読む。その際に自分の読み取り
が恣意的なものにならないようにまずは心
がける。資料に印刷されている語句から離
れないようにし、表現に即して批判的に短
歌を読む。読み取った後は、その読みを他
者に分かるように伝える。自分の読みがど
の語句を根拠にしているかを主張しないと
他者には伝わらない。また、他者の異なる
読みを聞くことによつて、自分の読みの不
十分な点を実感する。試行錯誤を繰り返し
ながら読みを点検し、徐々に自分の思いや
考えを広げたり深めたりすることができる
ようになる。ざっとこんな流れだ。
生徒自身が作った作品をお互いに読み合
うのも良いが、教科書に掲載されている評

価のある程度定まった近現代の優れた作品
を読み比べたり、歌合わせをしたりする
のも論理的思考力や伝え合う力を養うた
めには効果的であろう。生徒だけでは、読み
が難しいこともあるから、教師の適切なア
ドバイスが欠かせない。適切なアドバイス
を与えるためには教師側の読みの修練も必
要となる。

教育には評価がついて回る。それなら何
をどう評価するのか。今までのように、教
師用指導書に書いてあるような読み、作者
の経歴、文法事項、修辞技法などを暗記さ
せ、それらをテストして評価するのはふさ
わしくない。どう読んだかといった読みの
正誤でなく、根拠を示しつつ何をどう論理
的、批判的に読んだか、自分の読みをどの
ように相手に伝えることができたかを評価
していかなければならない。

生徒たちが短歌を客観的に筋道を立てて
読んでいくという体験。さらに、自分の短
歌の読みを自分の言葉で丁寧に他者に伝え
ていくという体験。短歌という教材は、こ
れからの社会でよりよく生きるために必要
な「論理的思考力」や「伝え合う力」力を
養う手がかりになるのではないだろうか。